

2022年度公共政策実習の一環として地域社会の課題の取り組みについて —たびら昆虫自然園持続可能な発展のための考察—

ブレンディ バロリ
木佐貫 晃 成
小林 愛 純
西垣 的 倭
古田 詩 音
山本 美 結

はじめに

公共政策学科の実践科目の一環として、公共機関や地域社会の抱える課題に対して、グループワークの形で取り組む課題解決型のプロジェクトに参加することで、「公共政策実習」である。2022年度に、たびら昆虫自然園の持続可能な発展のためのテーマでたびら昆虫自然園への活動を行った。

本研究では、まず、たびら昆虫自然園の課題に対する政策提案や取り組みを実践し、大学生という立場から課題解決に携わる。さらに、たびら昆虫自然園にしかない特色を、よそ者として学生自身の目で学び、その良さを形で表す目的である。

Key words：地域課題、地域社会、持続可能な発展、人材育成

I. たびら昆虫自然園について

1. たびら昆虫自然園の概要

たびら昆虫自然園自体が日本でも数少ない貴重な施設であり、九州においては田平以外には存在しない施設である。現代では里山の風景が無くなっている地域が多くなってきている。そんな里山の風景を体感できる施設に活動を通して訪れることで、里山の大切さが理解出来ると確信している。地方の施設の現状を知ること、地方の課題や労働形態が見えてくる。その課題について、解決策を考え提案するこ

とで、地方に貢献できるのではないかと考える。

たびら昆虫自然園は、かつての日本の原風景であった畑、小川、池、雑木林、草はらなどの里山の環境を再現し、そこに集まる昆虫などの生きものを自然のままに観察できる施設である。園外から昆虫などの動物は移入していない、また田平に棲む昆虫のうち3,000種類以上が生息している。昆虫は小さく、隠れているものが多いので、解説員が常時解説案内している。年間を通じて1時間程度のご案内で30～60種類ほど観察できる。観察ゾーンは、一見雑然とした藪のようになっていますが、多様な昆虫が棲息し、観察しやすくなるために道沿いの草、林の下の草などは年に数回に刈り、必要な環境管理を行っている¹。

園が地域連携事業としては、長崎県立大学、田平まちづくり協議会、北松農業高校、平戸ミステリーローズの会、平戸市役所田平支所と連携し、園内に特定植物の保存を目的に「平戸ミステリーローズ」や「やぶ椿」の植樹を行い、新たな冬場の観察コーナーとして整備した。

また、地域や施設の情報発信を目的に「NCC ふるさと CM 大賞」に応募し、制作したCM「いいとこここ田平町」が映像賞を受賞した。そのほか、実施したイベントや園内の情報は、ホームページ等を通じて積極的に公開した。管理面では、通常の里山環境の維持作業に加え、深刻化するイノシシ被害対策として、営業に支障の無い範囲で罾や電柵の設置を行った²。

さらに、自主事業として、①観察会（夜の昆虫観察会）、一般入園者向けは8月1日と8月8日に実施。団体向けは7月31日に実施（ほしか保育園）。②教室等は写真家である栗林さんの写真教室、9月20日に実施、リース作り等。③コンクール形式で、第27回たびら昆虫自然園写真コンクール時に、応募作品数：224点（応募者41人）、入賞作品：13点、そして、作品展は11月22日～3月14日に開催した³。

2. たびら昆虫自然園の現状

園外からの昆虫は人工的に移入しておらず、田平に棲む昆虫のうち3,000種類以上が自然に生息し、里山の環境に自然に生息する昆虫を見つけるため、「昆虫戦隊ガイドマン」と呼ばれるガイド（解説員）が来園者と一緒に、園内を歩いて案内するスタイルで、大人にも子どもにも楽しんでもらえるよう工夫を凝らして運営している⁴。

案内の仕方はマニュアルをあえて作らず、それぞれの解説員が来園者に昆虫や草花を好きになってもらえるように、五感を使って楽しんでもらえるように工夫を凝らしたプログラムが魅力となっている。

表1. 令和2年から令和5年11月末までの入園者数（園の関係者からデータ提供）

たびら昆虫自然園入園者数	
年	総入園者
令和2年度	6,941
令和3年度	9,641
令和4年度	12,952
令和5年度11月末迄	8,262

しかし、1992年の開園から、園舎内の各施設・設備は平戸市の予算で改修が叶う一方、屋外フィールドには予算がなかなかつかない。約4ヘクタールもの屋外フィールドは常に除草や伐採などの管理作業に追われ、安全で快適な環境維持が困難となっている。高齢の解説員や園のスタッフは、地域の関係者の方々の協力も得て、できる範囲で施設の補修を始めたが、資機材を購入するための資金も必要な段階となった⁵。そのため、2022年にクラウドファンディングに挑戦することを決断した⁶。

さらに、2022年度の活動について、昆虫園の関係者から本学へ訪れ、学科の学生たちに対する以下の内容で呼びかけた。

今年度は開園30周年記念イベントが予定されておりマンパワーが必要。今年度もぜひ公共政策実習として、長崎県立大学の学生さんのお力をお借りしたい。実習期間は、6月から10月末まで。その中でも10月開催予定の「昆虫園まつり」に積極的に関わっていただきたい。昆虫園まつりは、ウォーキングイベント、移動動物園、音楽イベントを組み合わせた草地・裸地ゾーンを有効活用するために考えたお祭りである。

若い皆さんに自由な意見を出していただきたい。そして、SNSを用いて、自分の友達または公開して、たびら昆虫自然園をPRしていただきたい。クライマックスは昆虫園まつりに参加していただき思い出を作っていただきたい。音楽イベントで歌っていただけたらありがたい。また、9月末まで行われる昆虫総選挙や各種イベントの広報活動についてもお願いしたい。1人でも1つでもPRの手が必要である⁷。

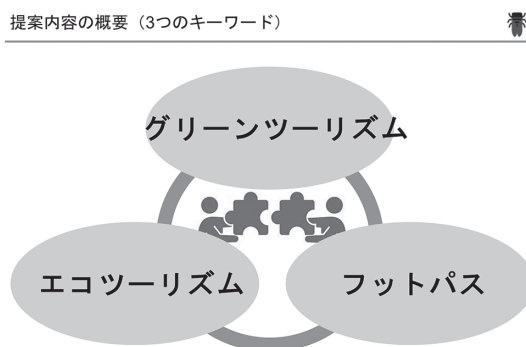
II. 活動開始時：たびら昆虫自然園持続可能な発展のための提案内容について（2022年7月13日）

まず、グループのメンバーたちが活動の方向性と内容について学内で何回も議論を行った後、2022年7月13日に現地にてまとめた内容は以下になる。

表2. 発表の目次

もくじ	頁
・表紙	1
・目次	2
・提案内容の概要（3つのキーワード）	3
・提案内容の一覧	4
①虫の擬人化フォトコンテスト	5
②聞き取り調査とアンケート調査の実施	6
③PRの方法	7
④外国人観光客の誘致について	8・9
⑤たびら昆虫自然園とSDGs	10
⑥昆虫自然園内のユニバーサルデザインの導入について	11
⑦フットパスを利用した「たびら歩き」	12
・さいごに	13

表3. 提案のキーワード



上記の表通り「グリーンツーリズム」「エコツーリズム」「フットパス」の3つのキーワードをもとに提案内容を考えた。この3つのキーワードについて具体的に述べると、田平町の地域住民や訪れる観光客に、田平町の自然・歴史・文化の魅力をすること（地域の保全につながる）、また、自然・文化・人々（地域資源）の交流を通して、滞在型の余暇活動を楽しめるコンテンツを提供すること、「フットパス」はその地域、田平町ならではの風景・街並みを楽しみながら歩く「道」のことです。この3つのキーワードを念頭に今後の提案内容を考えた。

詳細の提案内容は以下にまとめた。

・虫の擬人化フォトコンテスト、・聞き取り調査とアンケート調査、・PRの方法、・外国人観光客の誘致について、・たびら昆虫自然園とSDGs、・昆虫自然園内のユニバーサルデザインの導入について、・フットパスを利用した「たびら歩き」までに考えた。

まず、虫の擬人化フォトコンテストの提案について、1回目たびら昆虫自然園に訪問した際、ロビーにあった一枚の「こたつにいるカマキリ」の写真があり、そこから着想を得たものである。フォトコンテストは毎年行われているが、マンネリ化が起きている現状にある。

「虫の擬人化」フォトコンテストを行ってみたいだろうか

・大喜利みたいな？ ・幅広い年代の人が楽しめる ・虫が苦手な人でも楽しめるの

ではないか？

2 番目の提案は、聞き取り調査とアンケート調査

平戸市民、たびら昆虫自然園を訪れた方にアンケートや聞き取り調査を行いたいと考えている。

- ・たびら昆虫自然園での今後の方向性を考えるうえでも重要！
- ・国内に住む人向けの観光？訪日外国人向け？。田平町周辺の住民の認知度・理解度

◎アンケートの自由記入欄が最も回答者の意思や考えを聞くことができる部分であるのにも関わらず、空白であることが多い→たびら昆虫自然園内での「聞き取り調査」を行うことが有用であると考えている。

3 番目の提案は、PRの方法改善について

・たびら昆虫自然園に関する情報発信を行っていくために、どのような取り組みを行えばよいか？

◎SNSだけが情報発信を行うのに有用であるのか

・Instagram や Twitter を利用した情報発信が最近の主流である。しかし、第一段階として平戸市田平町の地域住民への情報発信を考える場合には「自治体広報誌」での情報発信が有用ではないか？

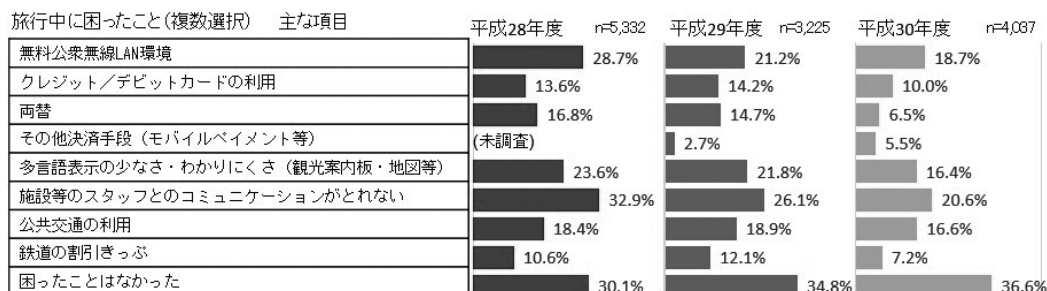
4 番目は、外国人観光客の誘致について

・外国人観光客受け入れが再開され、今後外国人観光客が戻ってくる・施設 HP やパンフレット、施設内案内表示の外国語追加（英語・中国語・韓国語など）

・施設案内時の外国人観光客への対応→イラストの使用・自動翻訳機の導入など・フリー Wi-Fi の導入

グラフ1. 「訪日外国人旅行者の受け入れ環境整備に関するアンケート」結果

出典：観光庁、https://www.mlit.go.jp/kankochu/news08_000267.html



5番目は、たびら昆虫自然園とSDGsについて

・伐採した木の再利用や農薬を使わないこと等、たびら昆虫自然園では数十年前からSDGsの取り組みが行われている→あまり知られていないため、アピールする必要あり

◎平戸市のCO₂ゼロ都市宣言とつなげてPRしたい→行政のPRだけでは不十分

・カブトムシの生息数や川の生き物についてなど、現状把握のための調査が必要

6番目は、昆虫自然園内のユニバーサルデザインの導入について

・昆虫自然園内は、少し足場が悪いところがある→足腰が悪い方は、少し大変かも？



手すりの設置や、環境を変えない程度の足場の舗装 etc.

・目が見えない方、耳が聞こえない方などに向けた取り組みの工夫

◦目が見えない方…その季節の虫の音色や、解説を盛り込んだ音声を作る etc.

◦耳が聞こえない方…すべてに字幕を付けた映像や、筆談を交えた解説など.

◎集客の幅が広がる！

◎SDGsに関連した取り組みにもなりえる！

7番目は、フットパスを利用した「たびら歩き」について

・フットパスとは？森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】のことである⁸。

・田平は自然が豊かであり、歴史的建造物もあるのでフットパスを行うことで田平の魅力を体験して知ってもらう。・フットパスのコース例

西田平駅→たびら昆虫自然園→田平天主堂

・地域によっては、フットパスのツアーやイベントを行っている

Ⅲ. 聞き取り調査分析とその結果

本章では、チームが実習期間内に取り組んだ活動について述べていく。まず、主な活動は表にまとめている。

第Ⅱ章に指摘した通り、園内で来園者が帰る時に自由でアンケートを記入できるが、聞き取り調査の目的は、たびら昆虫自然園の持続可能な発展のための政策提案を考えることである。園内を訪れる来園者に対し、聞き取り調査を行い、その参考にした。まず、8月3日（水）、8月6日（土）、9月23日（金）の3日間で実施し

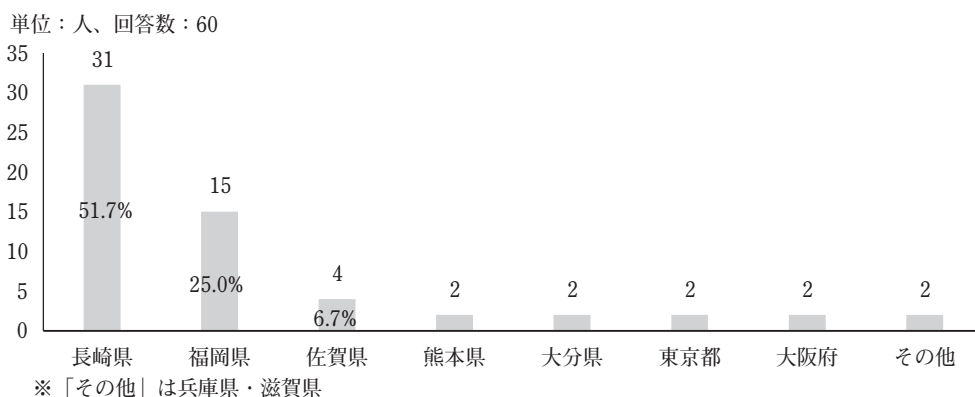
表 4. 活動概要

	活動年月日	活動内容	活動時間
1日目	2022年6月15日(水)	自己紹介・園内案内	13:30~17:00
	2022年7月6日(水)	学内話し合い	
2日目	2022年7月13日(水)	提案内容の発表	10:30~14:00
	2022年7月17日(日)	学校紹介	
3日目	2022年7月23日(土)	夜の観察会	18:30~21:30
4日目	2022年8月3日(水)	聞き取り調査①	10:00~17:00
5日目	2022年8月6日(土)	聞き取り調査②	10:00~17:00
6日目	2022年9月23日(金)	聞き取り調査③ 中間報告	10:00~21:30
7日目	2022年10月15日(土)	昆虫園まつり 準備	9:00~17:00
8日目	2022年10月16日(日)	昆虫園まつり	9:00~17:00
9日目	2022年12月7日(水)	話し合い・PPT作成	
	2022年12月14日(水)	最終報告会	14:00~19:00

た。来園者への聞き取り調査の結果は以下の通りになる。

1つめの質問は、「本日は、どこからこられたのですか。」である。この質問からは、記載の棒グラフが示す結果が得られた。長崎県からが51.7%、福岡県25%、佐賀県6.7%と九州地域からの来園者が多くなっている。

グラフ 2. どこから来たのか



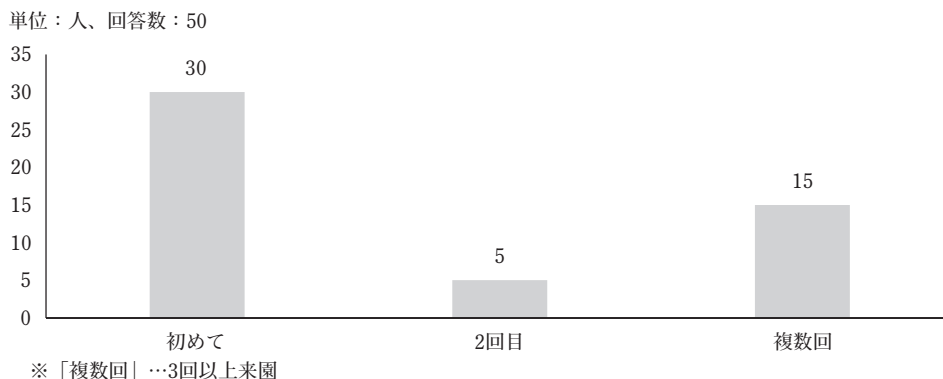
聞き取りの内容としては、(1)～(5)で、どこから来たのか、来園回数、計画時期、情報をどのように得たか、交通手段を聞く。(6)～(9)では、最も感動・印象に残った点、解説員の案内に関する感想、施設内の良かった点・不便であった点、今後、どんなイベントを行ってほしいかの質問である。

ついに、こちらのスライドでは、長崎県からの来園者がどの市町から来園してい

るかを示しています。回答数31のうち、佐世保市が8、長崎市が5、平戸市が4となっています。このグラフから、田平町および平戸市からの来園者が少ないという課題が見えた。

次は、質問の2つめ、「今日は、どなたと、何人で来られたのですか、また今日は何回目のご来園ですか。」の結果は以下の通り。

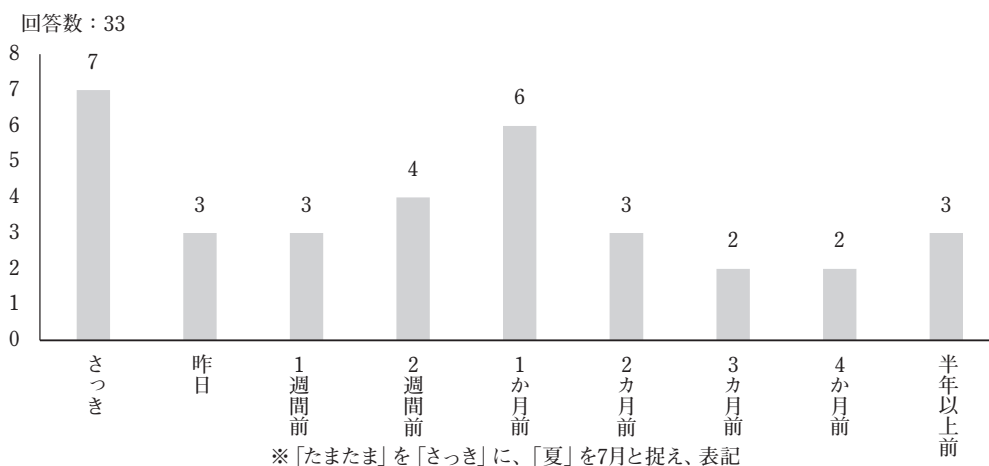
グラフ3. 来園回数



回答数50のうち、初めての来園者が30人、2回目が5人、複数回が15人となっている。

続きに、「いつ頃からたびら昆虫自然園に来られる計画を立てていたのですか？旅行で来られたのですか、近くから遊びに来られたのですか？」の結果は以下になる。

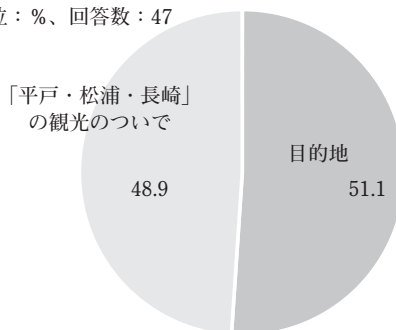
グラフ4. いつ頃からたびら昆虫自然園に来られる計画について



また、たびら昆虫自然園を目的地として来園したのか、「平戸・松浦・長崎」の観光のついでに来園したのかを記載しているところ、結果は半々である。

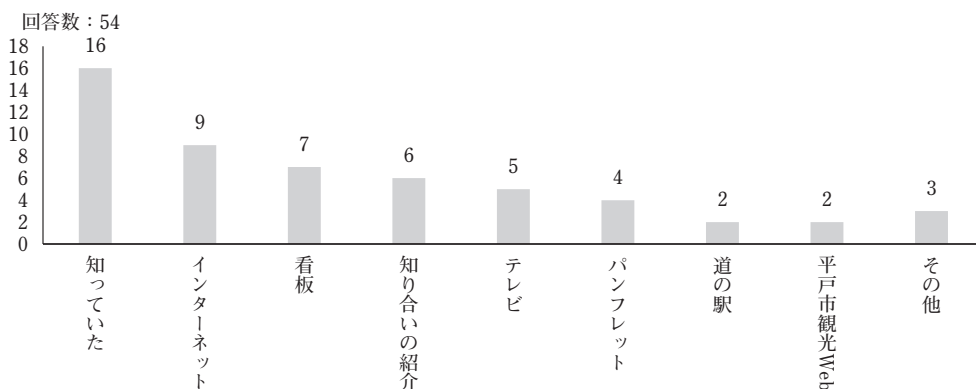
グラフ5. 目的地として来園

単位：％、回答数：47



4つめの質問は「たびら昆虫自然園に関する情報をどこで得たか、また来園する決め手となった出来事を教えてください。」という質問である。

グラフ6. 情報入手について



※その他…栗林慧さんの講演、平戸市観光Web、ガイドブック、雑誌

結果は記載の棒グラフの通りである。54の回答のうち、たびら昆虫自然園の存在をすでに知っていた人が16人、インターネットで情報を得た人は9人であった。

次に、質問の5つめ、「たびら昆虫自然園までの交通手段を教えてください。」という質問で、53人の回答者から、自家用車52人とバイクは1人。

質問の6つからは、自由記述式で、内容は「本日たびら昆虫自然園に来て何に最も感動・印象に残りましたか。」という質問である。

回答の中には、「自然」の中で昆虫・植物を観察できることや虫の成長の過程などの回答があった。詳細は以下になる。

・「自然」の中で昆虫・植物を観察できること

昆虫を生で見ることができ、生態を解説付きで知ることができる、虫に触れる

ようになった、普段注目しない植物を見られた、名前は知っているが実際に見たことの無い植物を見られた。

・虫の成長の過程

カマキリの幼虫から成虫になるまでの過程を見ることができた、ショウリョウバッタの産卵

・その他

触り方を知れたので、家で飼っているカマキリの扱い方がわかった、この時期（鳴く虫の観察会）でも、クワガタが見られた、タガメとタニシの違いを知ることができた、7つめの質問は、「またたびら昆虫自然園に来たいと思いますか、ぜひ聞かせてください。また、解説員の案内に関してのご感想を聞かせてください。①良かった点、また不便であった点・不満な点はございますか。」という質問になる。

まず、解説員については、「わかりやすい説明で、質問にも全部答えてもらった」「ガイドがいてこそその魅力があると思う」「解説員の方たちに個性があり、毎回楽しい」などの回答があった。良かった点は、「実際に目で見て、手で触れて楽しかった」「今度は時期を変えて来たい」などの回答があった。

7の①の回答

・解説員について

わかりやすい説明で、質問にも全部答えてもらった、ガイドがいてこそその魅力があると思う、解説員の方たちに個性があり、毎回楽しい、解説員の知識がすごい、聞いていて飽きない、いつも面白い話を聞けるので楽しい、オオスズメバチが怖かったが「何もしなければ大丈夫」と教えてくれた、優しくフランクに接してくれた、質問しやすい。

・良かった点

自然に近い点、手を付けていない点、実際に目で見て、手で触れて楽しかった、今度は時期を変えて来たい、見たことあるけど名前を知らなかった昆虫について知ることができた。

また、「またたびら昆虫自然園に来たいと思いますか、ぜひ聞かせてください。また、解説員の案内に関してのご感想を聞かせてください。②来るために、足りない・もっとこうしたらいい、こういうものが欲しい等の意見をぜひ聞かせてください。」という質問である。

7の②の回答

・見学について

もう少しゆっくり回ってほしい

・園内について

歩いて回る範囲を広げてほしい、大人が利用するためのベンチ、展示の文字が小さい、説明しか載っておらず、写真の昆虫の名前も載せてほしい、滑りやすい場所の対策をしてほしい、ハンディーファンの貸し出しがあった方がいい、かごに入った虫がいっぱいいると良いかも、めずらしい昆虫を展示しているものがみたい、園の入り口が少し見づらかった。

見学については、「もう少しゆっくり回ってほしい」、園内については、「歩いて回る範囲を広げてほしい」「滑りやすい場所の対策をしてほしい」「園の入り口が少し見づらかった」の意見もあった。

また、情報発信については、「ここに来るまでの看板がわかりにくい」「ホームページが地味すぎる」などの回答があった。

・情報発信について

ここに来るまでの看板がわかりにくい、ホームページが地味すぎる、グーグルマップでたびら昆虫園を調べると標本の展示室が最初に出てきて、園内を案内している様子を最初に出したほうが良い。

・その他

何かのついでじゃないと来られない、8つめの質問は「どんなイベントがあったら嬉しいか、イベントでこんなことを行ってほしいなどの意見を、ぜひ聞かせてください。」という質問である。

・あったら嬉しいイベント、イベントで行ってほしいことについて

カブトムシやクワガタの特集イベント、季節の虫・植生の紹介、食物連鎖の様子を実際に観察したい、昆虫に触れたい（触れられることが出来る昆虫だけでいいので）、昆虫バトル（相撲）（自然の形ではないのでやっていいのかどうか）、飼い方、採集場所、探すときの服装、触り方に関する「講座」を開いてほしい、昆虫クイズ・なぞなぞ大会、図鑑アプリに昆虫の写真を登録する。アプリ内で自治体や環境省などが決めた、クエスト（この昆虫の写真をとれ！）をたびら昆虫園でも行う、早朝ツアー、ボランティアで園内の掃除や整備をする、サマーキャンプ、虫好きの子どもたちによる園内の案内、工作教室（昆虫のおりがみ、ぬりえ）、昆虫のコスプレ、ワークシート スタンプラリー（それぞれの虫、そのいる木の近くに設置）、昆虫を捕まえ、それを持ち帰りたい（思い出を「もの」として持ち帰りたい）、「飼い方、採集場所、探すときの服装、触り方に関する「講座」を開いてほしい」「早朝ツアー、ボランティアで園内の掃除や整備をする、サマーキャンプ」などのイベントを行ってほしいとの回答があった。9つめの質問は、「他にご意見やご要望は

ございますか。自由にお話してください」という質問である。

・情報発信について

PRがもっと必要（夜の観察会を知らなかった）、市のホームページにあまり出てこない（大きく掲載されていない）、長崎県内だけでなく全国に向けた情報発信をもっとしてほしい。

アピールをもっとするといひ 広報誌にチラシを入れるなど、調べてから見つけてもらう感じになっている。

・施設について

トイレが狭かった、園内を回る途中にイスを設置してほしい（子どもが疲れたときに座れるように）、まず、情報発信について、「市のホームページにあまり出てこない（大きく掲載されていない）」「長崎県内だけでなく全国に向けた情報発信をもっとしてほしい。」などの回答があった。また、施設について「園内を回る途中にイスを設置してほしい」などの指摘があった。

・運営について

金額面が良かった、虫除けスプレーあると良いかも、マニュアルがないのが良い、子どもだけ連れて行ってほしい（昆虫嫌いな親御さんも、子どもだけ連れて、行ってくれるなら来園するかもしれない）、保育士など専門家についてきてもらうと、親御さんも安心して子どもを預けられる。

・その他

金額面が良かった、マニュアルがないのが良い、来るたび予想以上に楽しめる、子どもがいないとあまり行こうと思わないかも、昆虫クラブの存在を知らない人が多いかもしれない、下敷き（マップ・昆虫がかかっているもの）。

上記のように、2回にわたり、学生たちが聞き取り調査を行い、グループ内で議論し、次の章に政策提案などについてまとめた。

IV. 実習から得た経験に基づいて提案

以下に、活動を通して、聞き取り調査の結果を踏まえて、たびら昆虫自然園の持続可能な発展のための政策提案を行う。提案の内容は「短期」「中期」「長期」の3つの時期で分けて考えた。

提案（短期的な）

- ・昆虫園に行く途中の看板を見やすくする

- ・ 全国に向けた情報発信 SNS（インスタ・Twitter）の活用
- ・ パンフレットをもっと色々な所に置かせてもらう
- ・ 市や県の広報誌に載せてもらう
- ・ 観光サイトの掲載強化（来館時の注意点など）
- ・ イベントの告知強化（夜の観察会や飼育方法のレクチャーなど）
→興味があっても知らない人が多い
- ・ 滑りやすい場所への対応（注意喚起の看板設置等）
- ・ 掲示物の見やすさ（子供が読みやすい、お年寄りでも見える大きさなど）
- ・ HP に解説員の紹介を載せる

まず、「短期」の提案は、「昆虫園に行く途中の看板を見やすくする」「市や県の広報誌に載せてもらう」「HP に解説員の紹介を載せる」の提案を行った。

提案（中期的な）

館内の充実度をあげる

（ベビースペース設置、軽食販売等）

→滞在時間を延ばす

学校や施設への移動展示室

広報誌にチラシ

→近隣地域の知名度アップ

- ・ リピーターを増やす取り組み（季節・時期で違う取り組み）
- ・ 月1や2カ月に1回のペースで昆虫特集コーナーを設ける

→期間限定のもの（季節の昆虫紹介や食物連鎖の過程の説明などの特集コーナー）を設けることで、来館者のニーズに応えたり、昆虫があまりいない時期にも楽しめる

○長期滞在化・目的地化させる

- ・ 来園者は保育園～小学校低学年くらいの子供が多い

→館内、あるいは館外に遊び場があるといいかも

- ・ 飲食スペース？軽食の販売？があると親御さんも嬉しい

→結果的に滞在時間伸びるのでは？

「中期」の提案は、ベビースペース設置、軽食販売、館内、あるいは館外に遊び場を設置することで、館内の充実を図り、目的地化させるという提案である。

提案（長期的な）

ホームページの見直し、再作成

→恐らくできる人がいない（プログラミングとかが必要だから）

「長期」の提案は、ホームページの見直し、再作成、情報発信強化、官民連携強化として指摘した。

また、長期的に、小林さん個人からもう一つの提案があった。

「カルトブランディング」を落とし込むことはできないだろうか？

『カルトブランディング－顧客を熱狂させる技法』、田中森士、祥伝社新書（2021年4月10日、初版第1刷発行）

北米には、「カルト的な人気を誇り、熱狂的な“信者”を抱える「カルトブランド」という概念が存在する。「カルトブランディングとは、人間、組織を「好きなブランドのためなら身を捧げる信者」に変えるプロセス」のこと（『カルトブランディング－顧客を熱狂させる技法』より引用）。

「カルトブランディング」をたびら昆虫自然園の運営にも活用できないだろうか？

カルトブランドをつくるプロセス

- ①ブランドの存在理由を明確にする
- ②ペルソナ（ブランドのターゲットとなる架空の人物）を定める
- ③ストーリーを組み立てる
- ④タッチポイント（ブランドと顧客や潜在顧客との接点）を定める
- ⑤コミュニティーをサポートする
- ⑥解析とメンテナンス

（『カルトブランディング－顧客を熱狂させる技法』より引用）

V. 結論：たびら昆虫自然園持続可能な発展のために

上記に述べたように、たびら昆虫自然園が抱える課題としては、園舎内の各施設・設備は平戸市の予算で改修が叶う一方、屋外フィールドには予算がなかなか付かない、また、高齢の解説員の後継ぎの人材をなかなか確保できないである。

そこで、アンケートの結果に基づき、まず、平戸市田平地域の地域資源の活用方法を見直す必要がある。

1つ目は園の資源を地域資源として活用することである。2つ目は多くの人との

連携を構築する⁹。

また、地域活性化や観光まちづくりなどを進めていくため、多くの人との連携として5つのことが述べられる。

1つ目は地域の様々な企業や団体が連携し、地域全体の資源や魅力などの情報を共有すること¹⁰。2つ目は人と人を繋ぐ人的ネットワークの構築。活動を円滑に進めていくには直接的な交流や SNS などのやり取りを通じて独自の人的ネットワークを形成することも大切である。3つ目は地域住民からの理解と信頼を得ること。4つ目はコミュニティ広場を設けることである¹¹。

5つ目は将来の担い手の育成である。地域活性化を継続していくためには地域住民や企業との連携だけではなく、人材育成に向けての職人やリーダー人材の育成も重要であると考えられる。

今回の活動中で明らかになった地域の課題に対策を講じて、ハード、ソフト面を充実させるとともに、地域内で住民を巻き込んだ取り組みを行うことで官民の協力関係の形成を行うことが必要不可欠である。また、たびら昆虫自然園を担う次世代の育成が必要不可欠なのではないかと結論に至った。

謝辞

本研究は、たびら昆虫自然園の皆様にご多大なるご協力をいただいた。この場をお借りし深く感謝の意を表す。また、本実習の5名の学生たちが積極的に取り組んできたこと感謝している。

Appendix (付録)

1. 活動記録

たびら昆虫自然園 1日目

2022年6月15日 小林愛純

【内容】：・自己紹介・6月～10月全体の流れの説明について・解説指導員の方によるフィールド案内・感想と提案・日程調整の打ち合わせ

【感想と提案の内容】

○感想：テレビなどのメディアで見る虫のイメージ、例えば、ハチなどは「近づくると刺されるから怖い」や「巣を見つけたらすぐに駆除」といったイメージがある。しかし、今日のフィールドワークでは、ハチへのかかわり方、スズメバチを触っている様子を見るなど、まだできて間もない巣を別の場所に移すなどの話を伺い、必ずしもハチは怖い生物ではないということを知った。普段、私が感じていなかった別の視点から昆虫の世界を見ることができたと思う。

昆虫園は動物園と違って、昆虫たちがいる場所が固定されておらず、いる場所が毎日違う、季節によっても私たちの目・耳に入る情報がすべて違う。そして昨日は見なかった（今日の見たことのないサナギなど）昆虫たちの変化を楽しむことができる場所であると感じた。これが動物園にはない昆虫園の魅力であると感じた。

○提案（長期ビジョンで考えること！）：・虫の擬人化（ロビーのような場所にあった一枚の「こたつにいるカマキリ」から着想を得る）

・フォトコンテストは毎年行っているが、マンネリ化が起こっている現状がある中で「虫の擬人化」フォトコンテストを行ってみたいかどうか「こたつかマキリ」

大喜利みたいな？

・大人でも子どもでも一目見て楽しい：・聞き取り調査とアンケート調査

・たばら昆虫自然園での今後の方向性を考える上でも重要！

・アンケートの自由記入欄が最も欲しい情報であるが空白であることがほとんど→聞き取り調査が有用

・PRの方法

・SNSだけだろうか？町の広報誌から？：・外国人観光客の誘致について

・まず既存のパフレットの英語版

・インターネットの環境を整えることが第一の課題（徳島県三好市の例）：・昆虫自然園とSDGs

・木の背が高くなったら切り倒し、カブトムシの幼虫のおうちにする（農薬を使っていない、自然のままに取り戻す）、普通なら切り取った木は燃やす（CO₂排出につながる）→たばら昆虫自然園では数十年前からSDGsの取り組みがあった！

・カブトムシの生息数を調べる

・川の生物はどのように守る？

・平戸市のCO₂ゼロ都市宣言とどのようにつなげられるのか？（行政のPRだけでは足りない…）：・昆虫自然園内のユニバーサルデザインの導入について

・足場が悪い

・目が見えない人、耳が聞こえない人に向けてはどのような取り組みの工夫ができるのか考える必要がある：・解説員の方の物語（ライフヒストリー）をもう一度

7月6日（水）の話し合い

2022年7月8日 小林愛純

【日時・場所】：・2022年7月6日（水） G-205

【内容】：・7月17日（日）の学校説明会でどのようなことを話し合うのか

・7月13日（水）の実習でどのようなことを提案するのか

・観光庁「観光教育ノススメ」の視聴など

【提案の内容】：

・エコツーリズム・グリーンツーリズム・フットパスの3つを柱に今後の提案、構想を練る

・エコツーリズムをはかってグリーンツーリズムを農山漁村地域において自然・文化・人々（地域資源）の交流を楽しむ滞在型の余暇活動

・ストーリー性を考える、体験要素を強める：・フットパスの取り組みの提案

・たばら昆虫自然園周辺に宿泊施設（キャンプ場等）の設置を検討する一泊二日と日帰り

それぞれで体験モデルの設定

- 周辺は海や教会など地域資源はたくさん：「たびら昆虫自然園」の枠組みにとらわれないこと
- 「たびら昆虫自然園」の枠組みにとらわれず、田平町全体を巻き込んだ取り組み
- まず地域住民の認知度を高めること：「夜の観察会」は既存だが、「朝」にも何かできるのでは？
- 「朝」の昆虫園の様子はよくわからないので今度質問してみようと思う：とにかく訪日外国人の呼び込みに向けた準備を
- 訪日外国人の視点からは日本で目に入るもの、聞くもの…すべてが新しい体験：日本人の観光客は「昆虫」を見ることを目的に「たびら昆虫自然園」を訪れるだろう。しかし、訪日外国人を対象にこの提案を考えるのであれば「昆虫」に絞る必要はない
- たびら昆虫自然園周辺を中心に Wi-Fi の完備（最終的には田平町全体に）：訪日外国人にとっては
- たびら昆虫自然園の英語のパンフレットの作成、音声案内等：継承問題や雇用の問題の解決、アンケートの実施
- 園内でのアンケートの実施
- 平戸市の広報誌を通してアンケートの実施

たびら昆虫自然園 2日目

2022年7月13日 小林愛純

【場所・日時】：たびら昆虫自然園 2022年7月13日 10：30～14：00

【内容】：提案内容の発表・質疑応答・園内視察・日程調整の打ち合わせ

【提案の内容】：昆虫園祭について検討する・Twitter のアカウントの広報・大きなイベントで告知する、オーバーユーズさせないための人数制限一日・一時期にたくさん来るのではなく、継続を、質の向上 ストーリー性を求める・人と人のコミュニケーションが重要である（最も）

①虫の擬人化フォトコンテスト：コンテストを新たに行うのか、既存のものに入れ込むのか・運営と審査の問題、評価基準の設定・虫は表情が出にくい

☆表現方法に注意

②聞き取り調査とアンケート調査の実施：人と人とのコミュニケーションの中で聞き取り調査、文字ではなく言葉で・昆虫自然園には何が必要なのか・行う時期については検討・昨年のアンケートいくつかの家族でまわる中で、かき乱す家族がいた、まわり終わった後に聞き取りを行う・解説員の方にお手伝いいただく方法もあるが、第3者の方が言いやすい場合と解説員の方の方が言いやすい場合がある、「楽しかった」だけではなく、「何が楽しかったのか」「何があればもっと楽しくなるのか」を聞き出す

③PRの方法：今年、平戸市の広報誌（30周年記念）と議会だよりで特集を組んだ・たびら昆虫自然園は地元のファンが圧倒的に少ない→自治体広報誌「昆虫園がありますよ！」ではなく、ストーリーはストーリー性・インパクトを与える・長崎新聞の「森きらら」の特集を確認

④外国人観光客の誘致について：電波を強くする、もしくは Wi-Fi の導入を・たびら昆虫自然園では翻訳機を一台導入しているが、電波の関係で使えていない状況・中国人や韓国人の来園者はあるが、短期的には英語の導入を検討

・外国人は日本のすべてが目新しいこと、日本の文化を知ってもらう・外国人は団体ではなく、個々人で行動する

⑤たびら昆虫自然園とSDGs：・子ども向けのプロジェクトとして木の伐採を行うことがあった・無農薬、余ったものを直売所で販売、たなご？ホタルの例も・SDGsの取り組みとしてSNSで発信を行う 小さな積み重ね家でもできるモデルの提案 体験できるものを30年以上前から意識せずに取り組んでいたこと

・そもそもSDGsが何なのか、認知度の問題：子どもは知っているが、親世代は知らないのでは？

・SDGsはキャッチーな言葉ではあるけど、逆にとらえると言葉ありきであるという課題：昔から当たり前に行ってきたことが「SDGs」

⑥昆虫自然園内のユニバーサルデザインの導入について：・これも中長期的な課題・畑のところを車いすで通るのは難しい・電動車いすの導入？・この問題に関して、私たちは、提案はできるが「手法」としてかわることができないこと

⑦フットパスを利用した「たびら歩き」：・たびら昆虫自然園と天主堂 ガイド次第ではつなげることが可能である・着地型 現地集合・現地解散+体験型・モニターツアー・産官学連携（たびら昆虫自然園・旅行会社・役場・MR・北松農業高校）の検討・北松農業高校が草地裸地ゾーンで移動動物園を行う・エコシステムの視察・「フットパス」現代風のキャッチーな言葉であるパス→何も無いところ（何も手入れされていないところ）を歩く、・たびらまるごと自然園

たびら昆虫自然園 3日目

2022年7月24日 小林愛純

【場所・日時】：・たびら昆虫自然園 2022年7月23日 18：30～21：30

【内容】：・事前説明、・夜の観察会（1日目）、・感想・話し合い

【話し合いの内容】：・目の不自由な方がいらっしゃっていた、・障がい者の方の意見をとりいれる、・世界中の写真家を呼び込むには、・昆虫・植物+ a、コンテンツ・ストーリー性、・8月3日と6日にアンケートを取る、・まず地域住民の知名度を、・あきない・あきさせない

【聞き取り・アンケートの内容として考えているもの】

5W1H

・どこから来たか、・いつからここに来ることを決めていたか、・なぜ来たのか、・誰から聞いたのか、・何を使ってきたのか（公共交通機関）

【感想】

虫の音がなければ、何も音がないような環境で1時間半歩けたことが幸せだと思った。カブトムシとガが一つの木の樹液を取り合っている様子は初めて見た。静かであり、時間を忘れてしまうような環境は「デトックス」であると思う。夜のイベントがあるならば、朝や昼との比較を行うイベントができるのではないかと考えた。

たびら昆虫自然園 4日目

2022年8月3日 小林愛純

【場所・日時】：・たびら昆虫自然園 2022年8月3日 10：00～17：00

【内容】：・聞き取り調査の作成・概要説明、・聞き取り調査の手直しに関する話し合い、・

聞き取り調査の手直し

【話し合いの内容】

・(4) たびら昆虫自然園以外でどこに行ったのか、ここが目的なのか、平戸から来たのか、・(2) 何人で来たのか、・(5) 事前情報として自家用車が一番多い、・(6) 解説員の方の案内でよかった点、・(8) 虫のイベント、花のイベントとか、・話しやすい雰囲気の形成、・たびら昆虫自然園での結婚式や誕生日会などの開催、・利益がでるものを

【感想】：聞き取り調査を行うことで、アンケートでは聞くことのできない意見を聴くことができた。家族で会話をしながら質問への回答をいただくことも利点だと思った。しかし、アンケート調査でないと本音を言えないといったような方もいたので、質問の仕方の工夫を行う必要があると考える。

たびら昆虫自然園 5日目

2022年8月6日 小林愛純

【場所・日時】：・たびら昆虫自然園 2022年8月6日 10:00~17:00

【内容】：・聞き取り調査 2日目

【話し合いの内容】：・案内の時間に関してどのように思ったか、・質問者が昆虫自然園の関係者ではないことを伝える、・昆虫をさわる・採集→開園当初からあった意見である、
しかし、後から来園した人が昆虫を見れなくなってしまう：・さわらなくても「ふれる」体験を棒の先にとまるとんぼ

・運営の方の意見：「特別な日」（虫にさわることができる日）をつくることはできないのか、・雨になると感想が変わる、・雨の日にはどのような質問をするのか考える

たびら昆虫自然園 6日目

2022年9月26日 小林愛純

【場所・日時】：・たびら昆虫自然園 2022年9月23日（金） 10:00~21:30

【内容】：・10:00~15:30 聞き取り調査、・16:00 8月3日・8月6日の聞き取り調査に関する中間報告、・19:00 鳴く虫の観察会、・21:00 聞き取り調査

【発表終了後、話し合いの内容】

○解説員の方からの意見：・年齢が上がるにつれて、解説のテクニックが上がると思っていたが、違っていた、虫を研究しているのであって、しゃべり方の研究をしているわけではない→来園者の声を聞いて、しゃべり方の研究をする、・HPの充実・アップデートを常に行う、・車100%→車に向けた看板の充実、・最終報告では正直な考察を！

○施設長からの意見：「知っている人」が多いのに「初めての方」が多いことが課題点、・「知っている人」の中でも何で・どこで知ったのかをさらに聞き出す

○たけざわさん：・園内はそのまま、休憩ブースの充実を

○川上さん→施設長：・羽羽の販売の検討 貸し出し用のものが2部ある、・拡声器は以前学校団体案内の際に使用していたものがある、・木に看板の設置は以前していたが、解説員の方の「自分で案内をしたい」という要望により撤去した、・たびら昆虫自然園は「里山」がコンセプトである。

便利にする道具は必要最低限でいいのではないか

不利益（わかりにくいことにこそ利益がある）→コンセプトをどのように売り出して

いくつかについて考える必要がある

【感想】：「鳴く虫の観察会」に参加して、一カ月前に来園したときと様子が大きく変わっていて楽しかった。虫の音を聞きながら「散歩」をするのがリラックスできるので楽しい。聞き取り調査に関しては、目的をもう一度確認するようにしたい。趣旨がぶれてるのではないかと感じることもある。そして、聞き取り調査の際には、回答者の回答に疑問を持つことが大切であると思った。

2. 活動様子の写真



写真1. 園内での議論



写真2. 園の関係者と意見交換



写真3、4. 聞き取り調査実施中



写真5. 幼いころから、たびら昆虫自然園
になじみがある西垣君がテレビイ
ンタビューに答える様子

写真6. 昆虫園まつりの様子
(10/16 (日))

脚注

- 1 <https://hira-shin.jp/tabira-insect-park/> から転載
- 2 一般財団法人平戸市振興公社、令和2年度事業報告、p.7.
- 3 同上
- 4 <https://readyfor.jp/projects/tabira-insect-park2022>、から転載
- 5 同上
- 6 同上
- 7 2022年5月10日、たびら昆虫自然園の関係者から説明文書
- 8 日本フットパス協会 <https://www.japan-footpath.jp/>
- 9 ブレンディ バロリ「弥彦村商工会と新潟経営大学の連携による弥彦村の資源調査に関する研究 村のインバウンド観光促進に向けた戦略を中心に」、長崎県立大学論集（経営学部・地域創造学部）56(1), 15-34, 2022-06-30 p.30
- 10 同上
- 11 同上